

1 鶴岡市鶴岡浄化センター〔鶴岡市〕

…………… 山形県鶴岡市

- ・鶴岡市は我が国で初めて「ユネスコ食文化創造都市」に認定され、下水道資源を活用した食・農業への展開を目指している。
- ・鶴岡市鶴岡浄化センターでは、下水道が有する「資源・エネルギー」を農水産業に有効活用し、地域資源循環を図ることを目的として、産学官による共同調査研究の取組みを実施している。
- ・下水処理により発生する「汚泥」「消化ガス」「処理水」などの有効活用として、「消化ガスによる発電」、「発電熱とつるおかコンポストを活用したハウス栽培」、処理水により繁殖させた藻類を餌とした「アユの養殖」等の研究調査施設の状況の他、「SDGs 未来都市」・「資源循環型社会」の形成へ向け、下水道資源の安全性と技術の水平展開、事業化（民営化）の可能性について検証を進めている取組を紹介する。



2 山形県企業局村山広域水道 西川浄水場〔山形県〕

…………… 山形県西村山郡西川町

- ・西川浄水場は、寒河江ダムを水源として昭和59年に給水開始した山形県内最大の浄水場。県内6市6町に1日最大給水量122,500m<sup>3</sup>/日の給水を行っている。
- ・平成25年の豪雨の影響で、水源の寒河江川が高濁度となり、浄水場の処理能力を超過したことにより給水を制限・停止し、一部市町で断水が発生することとなった。
- ・これを踏まえ、薬品注入設備の増設を行う等、水処理機能の強化を実施したことにより、過去最高の濁度となった令和2年豪雨では、6市6町へ給水を継続し、断水を回避している。また、設備の老朽化対策を計画的に行うなど、水道の安定供給に努めている。



3 山形市松原浄水場〔山形市〕

…………… 山形県山形市

- ・山形市は、大正12年に馬見ヶ崎川の伏流水を水源として通水を開始し、令和5年5月4日で水道通水100周年を迎えた。
- ・山形市松原浄水場は、山形市の約45%に水道水を供給する基幹浄水場。現在は蔵王ダムを主水源としている。施設能力45,000m<sup>3</sup>/日を有する無人施設であり、見崎浄水場で遠隔監視を行っている。
- ・施設の老朽化による耐震性の問題等から、全面改築のための「松原浄水場新築整備事業」に着手し、工事は平成18年3月に終了。耐震性に優れた先進の施設に生まれ変わった。また、平成26年度には水エネルギーの有効活用として、小水力発電設備を設置している。

